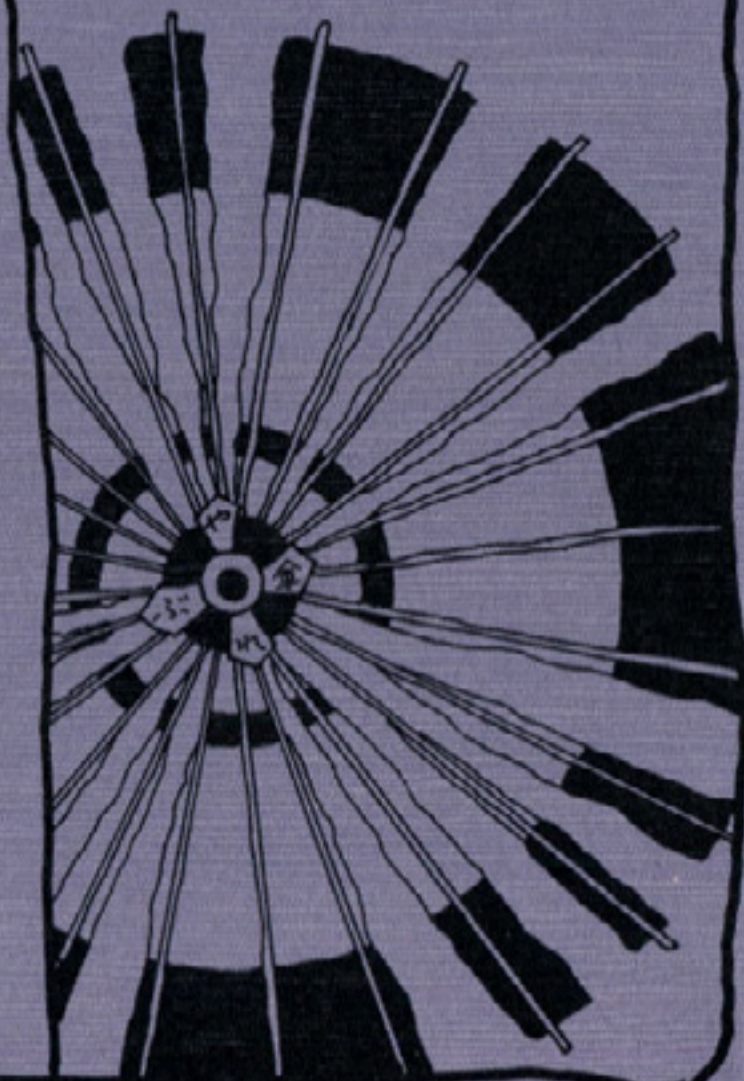


やぶれ傘



八十四号

二〇一五年六月

菜飯食ふのに二階までとほされて 根橋宏次

青梅の詰まつて固き袋かな きくちきみえ

蝶々に思はずついてゆくことに 大島英昭

緑陰の裸体の塑像午後に入る 藤井美晴

信号の赤に神輿の後じさり 廣瀬雅男

肩越しに背伸びして見る賀茂祭 井久保勲

鳥交るほかんと昼の月ありて 青谷小枝

恋猫の深傷ふしでの手当てしたりけり 瀬島酒望

客船の船旗はためく鳥ぐもり 渡邊孝彦

燕来る千住大橋高架下 安藤久美子

渡し船霞のなかへ入りにけり 白石正朝

はりぼての白象のみる花祭り 有賀昌子

ざく切りのキャベツ申揚げ待つ間 小山陽子

日の暮れの溪蓀の揺ることしきり 秋山信行

水底に日の差し来たる水馬 國保八江

抄 集 句 傘 れ ぶ や

選 夫 紀 崎 大

春昼や刷毛で掘り出す古代土器 菊池洋子

砥ぎし鎌日にかさし見る薄暑かな 久世孝雄

街中を回送バスの行く薄暑 天野美登里

つんつんとみんな空むく松の花 松村光典

スカートの身の軽きかな更衣 野口朝世

退院日桜吹雪の駐車場 萩原久代

麵吸るスーツの男花の下 松本善一

大方の菜園にじやがいもの花 村田武

葱坊主これより先は比企の里 浅嶋肇

内側で蓋を引張るささえかな 大野芳久

菜の花のおひたし塩をひとつまみ 岡田香緒里

放たれて目高は池の水底へ 奥田温子

ベンチにて葉桜の風分かちあふ 上林富子

初夏のちよつと豪華なランチかな 忽那みさ子

柳絮とぶゆるき流れの岸にゐて 齋藤朋子

渡し舟

白石正躬

草を摘む帽子の大き子をつれて  
春嵐雲は雲なる動きにて  
おぼろ夜の裏木戸しめる音のして  
椿活けて雨の一日すぎにけり  
菜の花に囲まれてゐる農家かな  
渡し船霞のなかへ入りにけり  
春月の前をよぎりし夕鴉  
大根の花夕闇に沈みゆく  
落つる椿下の椿を落としけり  
春満月川風少し出でにけり

花祭り

有賀昌子

はりぼての白象のゐる花祭り  
白湯で飲むカプセルひとつ朧の夜  
シャンパンの炭酸弾けゐる朧  
永き日や「はくたか」に乗り軽井沢  
池尻へ寄するさざなみ遠蛙  
桜満開百寿の葬を見送れり  
珈琲にマシユマロ浮かべ長閑けしや  
花筵猫悠々と通りけり  
花蘇芳の上に電線ありにけり  
夏蝶のひらひらひらと舞殿へ

キャベツ

小山陽子

花盛り鳩はいつものやうにゐる  
春灯病の父の手のかたち  
夏近き電車の屋根に錆のあり  
ハイヒールこつこつと鳴り夏近し  
雲はやく流れて春の月まろき  
サイダーやコップの低にコースター  
短夜やステレオも打も点けしまま  
紫陽花やこのごろ通ふ喫茶店  
ルーレットはハズレばかりを指す夜店  
ざく切りのキャベツ串揚げ待つ間

釣の宿

秋山信行

行く雲やテトラポッドに春の波  
苗札の真新しきを挿す園児  
浅き瀬に鱗のひかる春の川  
初蝶や畑を天地に返す間の  
白木蓮を暫し窓辺に美術館  
湖に向く一の鳥居や鳥雲に  
早蕨をひと山で買ふ釣の宿  
ひとつまた石段あがる雀の子  
日の暮れの溪孫の揺ることしきり  
新緑や舗道に跳ねる日照り雨



樟若葉

國保八江

吾子の忌の近づく夜の桜かな  
弁天堂へ漫ろ歩けば桜散る  
記念碑に祖父の名ありて樟若葉  
花は葉に小雨の武蔵一ノ宮  
折紙で何折らうかと春の雨  
水底に日の差し来たる水馬  
柿若葉屋敷稲荷のきつねかな  
軒先の高さに咲きて薔薇の花  
昼顔をフェンスに咲かせ砂利置場  
坂を来てその先も坂姫女苑

春  
昼

菊池洋子

神池の亀の背にのる亀のどか  
春暁の波音を聞く島泊り  
門灯に蛙きてゐる夜の雨  
作務僧の小走りにゆく彼岸入り  
せせらぎに影をおとして濃山吹  
春昼や刷毛で掘り出す古代土器  
おにぎりをほほぼる野辺の母子草  
合掌の造り映して田水張る  
目瞑りて髪切らるる子柿若葉  
暮れきらぬ杜に火の入り薪能



金魚

久世孝雄

たわみつつ風に弾ける雪柳  
麩をまく子もんどり打ちて春の鯉  
どの蝶も一直線に飛ばぬもの  
種残すための一列葱坊主  
茶室へと満天星の花続く垣  
砥ぎし鎌日にかざし見る薄暑かな  
あふれをりもくかうばらの花と花  
兄見舞ふ実家の庭の柿若葉  
丸々と去年の夜店の金魚かな  
朝掘りし新じやが夕にじやがバター

薄　　暑

天野美登里

街中を回送バスの行く薄暑  
突堤に灯りひとつの夜釣かな  
大潮の昼の荒布を拾ひ来る  
夏の夕庫裏のしきみ閼を跨ぐ猫  
新しき竹樋をゆく清水かな  
針金で章魚を刺してはつるしけり  
雨の日の目高の餌の沈みゆく  
海猫の浜に流木埋れゐる  
竹の葉の流れは淀へやまべ釣り  
水槽にあをく吸ひ付く鮑かな

五月の風

松村光典

はらはらと花はらはらと散り急ぐ  
満開のときはまんさく小雨降る  
萌え初むる銀杏並木の下にあり  
四月かな底冷えのなき朝稽古  
初夏の兆しありけり窓の風  
山手線に冷房が入り四月尽  
窓開けて五月の風を通しけり  
公園に子どもあかるる子どもの日  
つつんとみんな空むく松の花  
初夏の東山置く夕餉かな

少々の砂はそのまま浅蜷汁  
休耕の畦に沿ひて母子草  
花吹雪の灯点し頃納まりぬ  
墨堤に桜蕊降る荷風の忌  
客待ちの夕クシーの列朧月  
あれこれといふまに春の通りゆく  
昼酒をほんの少々外は初夏

高橋均

青空に溶け込むがごとく桜咲く  
穏やかに鳥の水脈引く春の池  
名を知つてつくづくと見る犬ふぐり  
蒲公英の絮とぶ道となりけり  
牡丹の崩れる如し夜半の雨  
補助輪の取れて危なげ柿若葉  
夏帽子少し小さめ年長児

武石京子

武田紀久

雛の間の暗き合掌造りかな  
広げ干す宿の蛇の目に落花舞ふ  
区役所の役の字下燕の巢  
年少組のお辞儀大きく春うらら  
特選の書道字か絵か四月馬鹿  
帯締めの一つたたいて四月かな  
昭和の日日の丸高き村役場

時田義勝

昼の月川原の柳青みけり  
売り出しの更地に小さき母子草  
神楽殿に古き雛置く緋毛氈  
裂帛の気合洩れ来る松の花  
子の眠る小さきテントや柳絮飛ぶ  
剥がしたる葉に欠けのなし桜餅  
牡丹を縁取りにしして石の庭

## ◇ 7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	1日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(日)	PM2:00	15周年パーティ	浦和ワシントンホテル	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保 八江
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	25日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保 八江
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

7月5日(日)はやぶれ傘15周年パーティです。3時開宴。

8月16日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR京浜東北線北浦和駅改札口。吟行地は見沼。句会場は浦和パレコ10階の浦和コミセン第7集会室。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎048-862-2757 藤井美晴 ☎0422-55-2733  
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 浦和コミセン ☎048-887-6565